



新市誕生から 20 年 広がる、深める 郷土のあゆみ

新市誕生から 20 年が経過しました。この間、地震や雪害、人口減少など、さまざまな出来事を経て社会環境は変化しました。その変遷を歴史資料などからたどり、各地域のあゆみを振り返ります。

問合先 総務課市史資料室（北村支所内） ☎ 56-2001

第7回 旧産炭地と農村の暮らしを支えた公共交通

戦後、人々の移動を支えて地域の交流に貢献したのは、鉄道やバスでした。炭鉱が盛んになったことで国鉄万字線沿線の人口は、昭和 20 年代に 2 万人を超え、万字線は学生や行商人などでにぎわい、昭和 30 年の美流渡駅の一日当たりの乗降客数は 2 千人を超えました。しかし、炭鉱の閉山が続いた昭和 40 年代にその数は半減し、昭和 60 年に路線が廃止され、代替輸送バスの運行が始まりました。その後、閉山の影響で人口減少と高齢化の進んだ美流渡・万字地域では、栗沢町が開業医による委託診療やコミュニティセンターの整備、町立病院へ向かう福祉バスの運行を始め、通院や買物、文化・スポーツ活動などの地域の暮らしを支えました。また炭鉱地域のつながりから生まれた美流渡美知美会、万字コスモス会などのボランティア団体は、町内会の枠を超えて地域のサークル活動やこどもたちの教育環境整備に当たりました。

一方、昭和 20 年代以降、戦後開拓によって未利用地への入植が進んだ北村では、岩見沢市街や月形町などを結ぶバス路線が拡充され、開拓地をはじめとする地域の大切な移動手段となり、冬季には沿線の住民が道路わきに目印となる木ぐいを立て、除雪に協力し運行を支えました。しかし、路線バスの利用者は過疎化や自家用車の普及を背景に減少していきました。路線が廃止となった北村美唄達布地域では、昭和 49 年から住民が通学バスを自主運行し、買物や温泉などに向かう住民にも利用されました。

その後、北村では平成 9 年の小学校統合を機に、村全域で赤川を発着する住民混乗のスクールバスの運行が始まりました。また、美流渡・万字地域ではバス路線が廃止になった後、令和 4 年からコミュニティバスが運行されています。地域を結ぶ公共交通は、こどもからお年寄りまで安心して暮らせるよう住民の外出の機会と移動を支え続けています。

万字線代替輸送バス開通式
(昭和 60 年 4 月、万字郵便局前)



市内のできごとをお伝えします！



8月22日(土)
くりさわ農業祭 地元野菜の詰め放題

岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘 1 丁目 1 番 1 号
☎ 0126-23-4111 (代表) FAX 0126-23-9977



ホームページ



X (旧 Twitter)



Facebook



Instagram



LINE

人の動き

住民基本台帳 (令和 8 年 8 月 31 日現在)

人 口	男	33,567 人	(前月比 - 24)
	女	38,323 人	(前月比 - 70)
	総数	71,890 人	(前月比 - 94)
うち外国人		594 人	(前月比 + 9)
世帯数		39,960 世帯	(前月比 - 14)

広報紙に関するご意見・ご要望は、はがき、市ホームページのフォーム、ファックス (0126-23-9977)、E メール (pr@city.iwamizawa.lg.jp)、総務部秘書課広報室へお願いします



広告

広告募集中

広報いわみざわに広告を掲載しませんか

募集枠数 各号 2 枠 (申込多数の場合は抽選)
掲載料 各号 1 枠 22,000 円
申込期限 掲載希望号の 3 カ月前の月末
(1 月号に掲載希望の場合は 11 月 2 日(月)までに申し込み)
申込方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください



ID: 14518